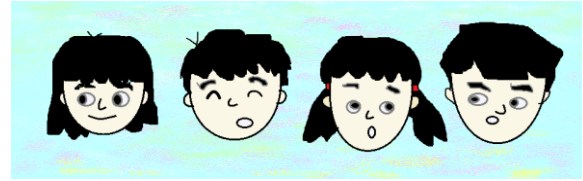


【月曜朝会の話 7月①H280704】



『ちょうどよかった……。』

「暑い夏が来ました。熱中症にならないように十分に気をつけて、元気に過ごしましょう。それではみんなで朝の挨拶をしましょう。お早うございます。(おはようございまあす。)」

今、6年生言ってくれたように、いよいよ夏、とっても暑くなってきました。

水分が足りなくなると、熱中症といって身体が耐えられなくなり、熱が出て倒れてしまいます。もっとひどくなると、救急車を呼ばなければならないくらいになります。すこしでも頭が痛くなったり調子が悪いと思ったら、我慢せずに先生に行って、水分補給もまねにしましょう。みんなで注意しあって具合の悪くなる人が出ないように気を配りましょう。

さて、今何気なくいっしょにいる友だち、当たり前のように一緒にいますが、本当はとっても大切な友だちです。

自分のまわりに当たり前にいる人たちを、大切にしていますか？

先月、桃五小の5年生が異動今日ちつで富士学園というところに行ってきました。移動教室というのは、学校や自分のうちから離れ、二泊三日でみんなと協力して生活してくることで、お父さんやお母さんのいない学園で、クラスのみなんと10人くらいずつの部屋に分かれ、食事の準備をしたり布団をひいたり片付けたり力を合わせて生活します。

また、みんなで楽しくゲームをしたりキャンプファイヤーをしたり、昼間にはハイキングをしたりして、みんなで楽しく過ごします。みんなが少しずつの我慢を出し合い、協力しないと生活できません。でも、桃五の5年生は大丈夫。力を合わせ心を合わせがんばりました。

その中で、こんなことがありました。もう寝る時刻です。みんな荷物の片付けも、歯磨きも終えてあとは寝るばかり。そんな部屋で、一人だけまだ準備が終わらず、あわててかたずけたり歯磨きをしたりしています。もう電気を消して寝るだけなのですが、他の子たちは、文句も言わず、黙って待っています。

眠い人もいるはずですがみんな静かに布団で待っています。「早くしてよ。」「何やってんだよう。」なんてだあれも言いません。私も電気のスイッチのところまで待っていました。

みんなの目は怒っている目ではなく優しく待っている目でした。歯磨き、トイレも終わり最後の友達も布団に入りました。誰が言うともなく『おやすみなさあい。』の声でみんなも声を合わせて『お休みなさあい。』電気を消すと部屋は静かになりました。他の人を優しく心配し、思いやりを持って行動できる。すてきな5年生です。そう思いました。

同じように、以前すぐ近くにいる人を大切に作る心を持った人に出会いまして、『ちょうどよかった』と言う話です。聞いてください。

以前は学校へ行くのに地下鉄を使っていました。その地下鉄は地下深くを走っているの、会談も80段どころではありません。だから、エスカレーターやエレベーターを使わないと大変です。

そんな、朝、学校に来る途中の地下鉄の電車で、時々足が不自由で杖を使っているおばあさんにお会いします。いつも同じ駅で乗って同じ駅で降ります。そしていつも私と同じ、エレベーターの近くに降りることのできるこの車両に乗ってきます。そしてこの日もこのおばあさんが乗っていました。

電車が地下鉄の目的の駅に着くと、何人かの人エレベーターに向かって足早に急ぎます。私も同じように急ぎ足でエレベーターに乗りました。

すると、やはりいつも同じ車両に乗り合わせている高校生くらいの女の子が、エレベーターの入り口でガサゴソやっていて、なかなか乗ってきません。

思わずエレベーターに乗っているおばあさんが「早く乗って。みんな急いでいるんだから。」といいますが、「ちょっと待ってください。」といいながらなかなか乗っては来ません。

時間にすれば20秒くらいなのかもしれませんが、とても長く感じました。

そこへ、さっきのおばあさんがゆっくりとエレベーターのところに近寄ってきて『あらまあ、ちょうどエレベーターが来ていてよかったわ、助かったわ。』といってエレベーターに乗ることができました。

すると・・・、安心したように先ほどの高校生の女の子もおばあさんの後から乗ってきました。(そうかそうだったんだ・・・。この子は、いつも見かけるこのおばあさんをエレベーターに乗せてあげようと思って、待っていたんだ・・・。)

エレベーターのドアが開まり、ウィーン・・・と動き出しました。

さっき、高校生に早く乗りなさいといっていたおばさんも、この女の子の気持ちがあわかって、女の子と目を合わせてにっこりしながらうなずいていました。ついさっきまでは「はやくしてよ。」と、ちょっとこわい顔をしていた(私もそうだったかも・・・。)

エレベーターに乗り合わせた他の人たちも、みんな笑顔です。

桃五の皆さんならわかりますよね。エレベーターがちょうどよく来たのではなくて、ちょうどよく、優しい高校生と、出会えた・んですよ・ね・・・・。

桃五の皆さんにはわかるでしょ・・・。

さっきの、移動教室の5年生のように、そしてエレベーターの高校生のように、誰かがよろこぶとわたしもうれしい、そんな気持ちの子が増えると、うれしいですね。

お話終わります。

